

次世代へ繋ぐ地域の繋がり

社会福祉学部社会福祉学科 2年伊藤実梨

活動先：特定非営利活動法人りんりん

ゼミ：山本和枝

1

① 自分の成長と気づきについて

私はこの一年で地域福祉という分野の視野を広くすることができた。山本ゼミに入った当初は子育て支援に興味があり、サービslラーニングでも子どもと関わるところにこうと考えていた。しかし二年次では自分の興味のない分野にも目を向けることが大切であると聞き、私は子どもから高齢者まで様々な事業を行っている特定非営利活動法人りんりんへ行くことを決めた。最初は子育て支援というところにしか目を向けられなかったが、りんりんの歴史をたどっていくと高齢者の支援から始まっていることがわかり、デイサービスでの活動も取り入れることをグループで決めた。

サービslラーニングの6日間は本当にあっという間だった。学童ではただ子どもと遊ぶのではなく、子ども同士で成長し合えるような環境が大切だということに気がつき、子ども同士が成長できるような声かけが大切だと考えた。デイサービスでは高齢者の方たちが小さいころからこの地域を大切にしている、今でもその地域をとっても大切にしていることがわかった。このことから「地域」というものに関心を持ち始め、大切にされてきたその地域を守っていくことが大切だと考えた。

りんりんはたくさんの事業を展開していたため6日間ではとても把握し切れなかった。私がこの一年で大きく成長したのはサービslラーニングを終えた後からだ。私はこのサービslラーニングで「地域の繋がり」というものに興味を持ち研究をした。半田市はNPOが盛んであるのを知っていたがなぜ盛んであるのかがわからなかったため、自分たちで半田市のまちづくりひろばにインタビューに行き、私はもう一度りんりんの事業展開について話を聞きに行った。りんりんではサービslラーニングでお世話になった理事長である下村さんに話を聞くことができた。りんりんがここまで様々な事業を展開するにはたくさんの時間がかかっていたことがわかった。初めは見ず知らずの団体に不信感しか抱かれなかったが、その中でりんりんが人と人との小さな繋がりを大切にしていこうとご縁もあり、少しずつ繋がりが広まっていったそう。この話を聞き、地域と関わっていくこと、その地域で暮らしていく中では人との繋がりはなくてはならないものであることが改めてわかった。そしてNPO法人というものは地域住民同士を繋ぐ架け橋になっていることに気付いた。

児童分野にしか興味がなかった私がここまで視野を広げることができたのは、サービslラーニングのおかげである。サービslラーニングでさせていただいたたくさん経験、サービslラーニングを通して出会えた人達。その人達との話は私の中の大きな財産になり力となった。サービslラーニングを通して私の中での視野が広がり、新たな夢を持つことができた。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

まちづくり広場にインタビューに行き、半田市はたくさんの NPO 法人があり、活発であることがわかった。今その団体が抱えている問題の一つとして「次世代への繋がり」というものがあることがわかった。私も若者世代であるが、私が高校生だったころは自分の地域など興味がなく、誰かがどうにかしてくれるだろうと思っていた。しかし、りんりんの下村さんが「地域の繋がりが崩れていくのは簡単だ」という話を聞き私は今地域を支えようとしてくれている人たちの偉大さがわかった。そして今ある地域の繋がり、人とのつながりを未来に繋げていくことが大切であり、それが難しいものであることに気付いた。私を含め若者世代は、一度は自分の地域から離れてしまうことはあると考える。しかしそこで途切れてしまうのではなく、その人達が大人になったときにまたつながりを発信していけるようになることこそが「次世代への繋がり」に発展していくのではないかと考える。そのためには子どもに力をつけることが大事である。子どもが地域の人との関わりを持ち、人との繋がり大切さを学んでいくことでその子達が大人になったときに発信者として地域を繋いでくれる。そのために今、様々な NPO 法人は子育て支援に力を入れていることがわかった。若者世代に直接働きかけることは難しいかもしれないが、小さなときの経験を未来へと繋げていくことは今からでもできる。

NPO 法人はその地域にあり、地域の姿をずっと見ていくことができる。地域の繋がりを守っていくためには地域住民の力も必要だが、NPO 法人がその地域住民を地域に取り巻いていくことが大切だと考えた。そのためには NPO 法人のような団体が今と未来の繋ぎ役という役割を果たしていくことが大切であると考えます。

二年次の集大成

社会福祉学部社会福祉学科 2 年小川輝久

活動先：特定非営利活動法人りんりん

ゼミ：山本和枝

① 自分の成長と気づき

はじめに、私はサービスマーケティングの活動を通し、コミュニケーション能力が成長した。なぜなら、私はサービスマーケティングの初日には悪いことをした児童に対し、どう注意すればよいか分からずに注意することができなかったが、活動をしていく中で児童に対しての注意の仕方について理解をし、実際に注意することができたからである。また、高齢者や児童といった利用者が話をしている時は笑顔で話を聞き、うなずくといった非言語コミュニケーションについてサービスマーケティングを通すことにより、自然に行うことができるようになったため、コミュニケーション能力が向上した。

次に私はサービスマーケティングの活動を通し、観察する力が成長した。なぜなら、サービスマーケティングの初日には児童と関わることに集中をしてしまい、児童の様子を観察することができなかった。しかし、サービスマーケティングの活動を通す中で、児童の様子を観察することはもちろんのこと、職員の方の動きを観察する余裕も出てきたためである。

気づいたことについては、報告・連絡・相談はメールやラインだけで伝えるのではなく必ず口頭で伝えなければならないということである。サービスマーケティングの活動中メールで連絡したことにより上手く内容が伝わっていなかった経験をしたからである。どのような職種でも報告・連絡・相談を口頭で伝えることは大切だと感じた。

次に気づいたこととして、私は施設の方が言ってくれたことを疑問に思うことをせず、受け入れてしまうということである。そのことから、すべて受け入れるわけではなく自分自身で考え、また考えたうえで思った疑問については必ず言おうと思った。また、まだまだできていないことは多いと考えたことから自己覚知をしっかりとできるようにしたいと考えた。

さらに、サービスマーケティングを行う前の事前学習がサービスマーケティング中に気づいたため、実習を行う前には活動先について詳しく調べる必要があると感じた。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題

サービスマーケティングの活動や報告会を通し、私がサービスマーケティングを行った地域は NPO 法人が積極的に祭りなどの地域のイベントごとに参加しているため、NPO 法人と地域の人々のかかわりがあると学んだ。

市民活動としては定期的に地域の人々が話し合う円卓会議が行われている。しかし、

地域住民の参加率が良いとは言えない。したがって、NPO 法人同士や地域住民が連携をし、また SNS を利用してもっと地域円卓会議を拡散させることにより参加率の向上を目指したいと考えた。

また、高齢世代はやなべお助け隊があり積極的に地域とのかかわりを見せているが、若者世代はあまり積極的に地域とのかかわりを見せていない。そのことから、学校などで講演会を開催することにより、地域に興味を持ってもらうことから始め、高齢世代から若者世代に地域について繋げていかなければならない。



子供たちや高齢者との関わり方

社会福祉学部 社会福祉学科 渡邊由梨

活動先 NPO 法人：特定非営利活動法人りんりん

ゼミ名：山本和枝

①自分の成長と気づきについて

サービslラーニングでの活動を通して成長したことや気づいたことは三つである。また、私が活動したのは放課後児童クラブとデイサービスである。一つ目は、子どもや高齢者とコミュニケーションをとるということはとても難しいということである。それぞれ話しかけるときの会話内容が異なり、少し話すと会話がなくなってしまう、どのように会話を続けていけばよいのかということが最初はわからなかった。また、あまり話してくれない子やデイサービスの利用者さんに対しては会話の内容を選ぶということが一番困難であった。3日間活動を行い成長したことは子どもたちや利用者さんの興味があることを知ろうとすることが大切であり、そのことについて会話をしてみるということである。子どもたちや利用者さんは自分が知っている会話には興味を持って話を聞いてくれるということや、話をしてくれるからである。コミュニケーションをとるということは人と関わる上で最も大切なことだと思うため、コミュニケーションはとても大切だということが気づいたことである。

二つ目は、子供たちと関わるうえで、注意をするということが大切ということである。職員さんが話をしているときに話している子がいると職員さんはその都度注意していたが、私はあまり子供たちに注意をするということができなかった。そのため、子供たちは誰かが話をしている時でも話していていいのだということを感じてしまうかもしれないため、きちんと注意し、いけないことを知らせてあげることが大切であるということが学んだことである。約4日間放課後児童クラブで活動を行い、後半は少しずつ子供たちに注意するということができるようになったということが成長したことである。そして子供たちには注意をする前に、嫌なことをされたと感じたら、子供に気づかせてあげ、自分で嫌なことをしないようにしなければならないということを思わせてあげることが大切であるのだということが気づいたことである。

三つ目は、デイサービスの方で、利用者さんにその都度話しかけることが大切であるということである。デイサービスの職員さんは利用者さんとのコミュニケーションを大切にしている、目線を合わせて話すことや、隣を通る際には声掛けを行っていることや、体調など様々なことを話しかけていて、利用者さんが過ごしやすい環境を提供することが重要であると気づいた。私も利用者さんと同じ目線で話すということができたため、成長したことである。

②活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

私がサービslラーニングを行った法人は、地域との関わりが強い法人である。「寺子屋」といった、地域の人がボランティアで塾などに行けない子供たちに勉強を教えるということや、遊びを行うなどの子どもの居場所づくりを行っている支援事業があり、常に子供たち

のことが考えられている地域である。寺子屋には塾に通えない子だけでなく、子供たちは夏休みのため家に誰もいないから来ているといった子も多くいて、家に一人であるよりは午前中に、友達と顔を合わせるといった方が、大人も子供も安心できるのではないかということが、地域の活動である。また、ごんの秋祭りや、年に1～2回の岩滑お助け隊との防災炊き出しがあり、地域との関わりがある事業がいくつかある。そして、地域ふれあい事業といった絵手紙教室や生き活きサロンといった仲間づくりなどを目指した事業も行われている。しかし、ごんの秋祭りや防災炊き出しは広まっているが、寺子屋は大型連休しか行われておらず、子供たちが集まらないといったことが活動を通して見えてきたことである。頻繁に寺子屋を行えるようにするためには、子供たちの数をもっと集めて、寺子屋といった支援事業を広めていくべきであるということが課題である。また、地域ふれあい事業で行われている取り組みをより広めていけば、子供たちと高齢者との関わりが増えるということを広めるべきである。人と人とのつながりが濃い法人であり、交流事業も頻繁に行われているため、参加者が増えれば地域との関わりが今以上に親密になり、子供たちや高齢者の居場所をたくさん設けることができるのではないかと考えたため、地域との関わりをより密接にすることも課題である。